

国際交流はこの人たちから始まる

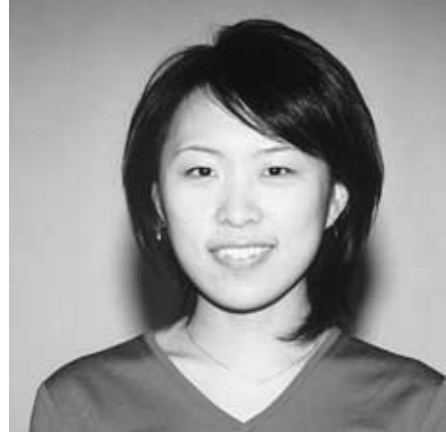
札幌に住む外国人

国際交流員

(Coordinator for International Relations)

地方自治体において、国際交流活動に携わる外国人青年をいいます。

現在、本市では韓国のほかアメリカ、ドイツ、ロシア、中国から来た5人が、地域における国際理解の促進や市の国際化を推進する事業において、重要な役割を果たしています。



ノ・ヒジンさん

平成13年4月から札幌市国際部で国際交流員として勤務。韓国仁川(インチョン)広城市出身

ヒジンさんは、お父さんの仕事の都合で、生まれてすぐに来日し、三歳まで釧路市、小学四年生から中学一年生までを山口県下関市で過ごし、また、大学三年生の時には沖縄国際大学に一年間留学したことがあります。

国際交流員として市役所に勤務しているヒジンさん。勤務先がある中央区の印象については、「札幌の中心であり、何でもある便利な所です。しかも、大通公園や中島公園と

大学卒業後の就職の場に札幌を選んだ理由を、ヒジンさんは次のように語ります。「釧路にいたころの写真はありますが記憶がなく、幼少時に過ごした北海道に行ってみたかったからです。また、サッカーのワールドカップが日韓共同で開催されるため、韓国との交流が増えるという思いもありました」。

いった大きい公園があるのが魅力ですね。特に大通公園はいつも仕事の帰りに立ち寄ります」と語ります。韓国にない日本の習慣は、みんなで食事などに行った時の勘定を割り勘にすることで。韓国では、その時にお金を持っている人が支払うということが、ごく自然なこととされています。

ヒジンさんは、日本の伝統文化に興味があり、現在「剣詩舞」に夢中です。これは紋付き袴姿で、詩吟に合わせ、剣や扇子を持って舞うものです。昨年の夏に大通公園で行われたお祭り「熱響舞夏」で、剣詩舞の先生に出会ったのがきっかけで習うようになりました。

また、料理も得意なヒジンさん。家に遊びに来た友人には、自慢の韓国料理を振る舞っています。いろいろあるキムチの中でも、白菜キムチ

は一日も欠かしたことがなく、韓国から唐辛子を直接送ってもらい、自分で作るという本場の味です。最後に、気軽にできる国際交流は何かとヒジンさんに問い掛けてみると、「私が積極的にいるいるな人に話し掛ける

ことです」と力強く答えてくれました。また、ヒジンさんは、「話し掛けられるのも、全然苦にならない」とも言います。街で見かけたときは気軽に声を掛けてみてください。それがヒジンさんの言う国際交流の始まりになるのです。



2002年FIFAワールドカップの組み合わせ抽選会で、韓国を訪れた桂市長の通訳を務めたヒジンさん。写真は韓国西帰浦(ソギポ)市のサッカーワールドカップ競技場